

令和5年度指定管理者モニタリング評価表

施設名	羽咋市デイサービスセンター	所在地	羽咋市鹿島路町1788番地
指定管理者	はくい農業協同組合		
住所	羽咋市太田町と105番地	選定方法	非公募
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
指定管理料	0千円(令和5年度決算額) ※歳入 1,574千円		
評価担当課	地域包括ケア推進室		
年度重点目標	地域への広報や居宅介護支援事業者との連携などの強化を図り、利用者数の増加につなげる。		

評価項目		評価する内容の詳細	評価 中間	評価 年間	確認方法	備考
1	職員配置などの実施体制	仕様書・事業計画書どおりの人員配置がなされているか。	A	A	現地	出勤簿・タイムカードのコピー及びORコードでの出退勤管理を確認、勤務日程表確認
		事業計画書に則した職員研修が実施されているか。	A	A	現地	内部研修を実施(コンプライアンス、介護予防、個人情報、認知症等)震災で実施できなかったものについては次年度に実施予定。
		指定管理業務の全部、又は主たる業務を再委託していないか。(届出済みの業務委託部分は除く)	A	A	現地	直営(再委託無し)
2	施設、設備及び備品の維持管理の状況	仕様書等に基づき適正に維持管理業務が実施されているか。	A	A	現地	各種台帳、業務日誌、運行日誌確認
		整理整頓・清掃がなされており、植栽等についても美観を損なっていないか。	A	A	現地	毎日の業務終了後、職員で消毒液清掃。
		法定保守点検について、点検内容、時期等が法令基準に基づき実施されているか。	A	A	書類	関係綴整備あり(水質、浄化槽、ボイラー等)ハサップ対策で、ねずみ・こん虫等の点検も実施。
		保守点検において、異常が認められていた場合、また、修繕が必要な箇所が見つかった場合、適切な処置が実施されたか。	A	A	書類	適切に実施
		備品等に過不足がなく、適正に管理されているか。	A	A	現地	適正に管理(JA企画審査課にて管理)
3	サービス向上への取組状況 (アンケート調査による意見及び対応は項目9に)	ホームページなどで積極的に情報提供が行われているか。	A	A	聞取り	定型情報はJAホームページ、JA広報誌(かけはし)その他行事案内等を地域へ配布
		特定の利用者を優遇したり、法令に基づく手続を経ることなく、利用を制限している事例はないか。	A	A	聞取り	定員未満の状況が継続中
		利用者に対して満足度について調査(アンケート・意見箱の設置等)を行ったか。	A	A	聞取り	毎年3月頃実施。 利用者・家族の意見等を随時、要望書で受け付けている。
		苦情・トラブルに対し、適切・迅速に対応しているか。	A	A	書類	苦情受付簿、ミーティング等により情報共有し対応
4	防犯・防災対策の取組状況	緊急時の連絡体制は整っているか。避難訓練等は実施されているか。	A	A	書類 (聞取り)	単独で火災訓練を6月に実施済。避難訓練(土砂災害)は公民館と11月下旬に合同実施。公民館との合同の火災訓練は2月に実施。
		リスクに応じた保険等に参加しているか。	A	A	聞取り	利用者・職員、備品等の総合的な保険に参加証書は本店にて保管・管理

評価項目		評価する内容の詳細	評価		確認方法	備 考
			中間	年間		
5	個人情報保護の措置状況	個人情報は適正に管理されているか	A	A	現地	キャビネットに施錠して保管 開閉記録簿により使用者を把握
6	経理の執行管理状況	団体のその他の事業との区分を明確にし、適正に経理処理が実施されているか。	A	A	書類 (聞取り)	会計システムの勘定科目を細分化することで他事業との区分を図っている。同一法人が経営する他施設との共通経費があるため、単純経理化(通帳分離)は困難
		収支計画書と大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因は何か。	A	A	書類	予算との乖離はなし
		料金等の収入が適正に得られているか。著しい増減がある場合は、その原因は何か。	B	B	書類	未収金なし。介護の重度化による他サービスへの移行がみられる。また、震災の影響で施設入居や転出される方がいた。
7	施設利用状況	施設の利用が十分に行われているか。利用者数、施設稼働率等に著しい増減がある場合は、その原因は何か。	A	B	書類	介護の重度化による他サービスへの移行がみられる。また、震災の影響で施設入居や転出される方がいた。
8	市への報告体制の確保	月例報告・実績報告・その他必要な報告が適切に提出されているか。	A	A	書類	適時提出(実績報告)
9	アンケート調査意見及び対応	利用者アンケートは、年度末に実施し、接遇・サービス共に良好。アンケート結果の検討を行い利用者の満足度向上につなげている。日頃の業務においても、利用者の苦情・要望等を把握することに努めている。苦情対応マニュアルもあり、体制も整っている。ささいな要望についても対応記録等をとっており職員間で情報共有等も行いサービス向上に努めている。				
10	今後、検討・調整が必要な事項	昨今、宿泊サービスを利用するための小規模多機能型の利用者が増えており、デイサービスだけでは、利用者の増加が困難な状況ではある。自立支援や重度化予防の個別プログラムを充実し、効果的なサービス提供に努めるとともに利用者獲得に向けたPRを検討する必要がある。 インターネット環境も整い、出退勤はQRコードで対応。R5年度は空調の改修等を行ったが、今後も補修が必要な箇所について計画的な補修をしていく必要がある。				
11	今後の管理方針	地域と密着した事業を続け、利用者の増加を図っている。今年度はJAたんぼぼと合同で運動会を行うなど新しい事業も行っているが、引き続き他事業所とのサービス内容の比較、サービス向上に向けた業務改善等を検証した上で、地域に対して積極的に情報提供を行うとともに地区組織との連携を強化し、利用者数の安定・増加につなげていく必要がある。 設備等の経年劣化が見られ、大きな修繕費等の発生が見込まれるため、設備や備品の計画的な更新など、適切な施設管理が望まれる。 一方で、現在では民間による様々な介護サービスが充足されていることから、公設でのデイサービス事業のあり方も検討する必要がある。				
総合評価		中間評価	年間評価		令和4年度	令和3年度
		A	A		A	A